

学校経営推進費を活用した 農福連携の取組み

～ブドウ栽培を通した取組みから～

大阪府立西浦支援学校

西浦支援学校について

- 大阪府羽曳野市にある支援学校で、
主に知的障がいのある児童・生徒が通う
- 小学部、中学部、高等部がある
- 日常生活に役立つ学習に取り組む

キャリア教育・職業教育

- 小学部 「生活」を中心に
- 中学部 「作業」を中心に
- 高等部 「職業」を中心に

中学部「作業」

水・金曜日の週2回 70分程度ずつ

「園芸」 「紙工」 「クリーニング」

「縫製」 「木工」 「窯業」

6種目を半年ずつ | ~3学年ですべて学習

高等部「職業」 ※生活コース

毎日15分ずつ「清掃」

月・水・金曜日の週3回 90分ずつ

「クラフト」「農業」「縫製」「窯業」

4種目を半年ずつ 1~2年ですべて学習

→ 3年生で1種目を選んで1年間学習

高等部「職業」 ※職業コース

毎日15分ずつ「座学」

月・水・金曜日の週3回 90分ずつ

「喫茶」「事務」「清掃」「農園芸」

学期の定めなく、4種目をバランスよく学習

高等部卒業後の進路

- 就職（障がい者雇用） 約1割
- 職業訓練、自立訓練等 約2割
- 就労継続支援A型 なし
- 就労継続支援B型 約3割
- 生活介護 約4割

西浦支援学校

大阪公立大学

卒業生をぶどう栽培の担い手に

環境農林水産総合研究所・農業大学校

大阪府 学校経営推進費

学校教育目標の達成に向けた
効果的な事業に予算を配当

「人との関わりを大切にし、自己有用感を高め、
生徒の社会的自立をめざす」

学校経営計画の中期的目標

- ・職業教育の充実
- ・地域連携による「はたらく」意欲の向上
- ・校内でのぶどう栽培の実現
- ・よりよい進路実現
- ・全校一貫したキャリア教育

事業目標

1. ビニルハウスを建設して新手法でぶどうを栽培
2. 誰にでも分かりやすいテキスト作成方法を確立
3. 小学部・中学部・高等部で一貫したキャリア教育

事業目標

4. シンポジウムを開催して農福連携ネットワーク拡大
5. 卒業生がぶどう栽培で活躍するための条件整備
6. 地域農業産業への就労を実現

I. ビニルハウス建設・新手法でのぶどう栽培



ぶどう栽培用ビニルハウス

新手法によるぶどう栽培



新手法によるぶどう栽培



低身長でも
ぶどうに
触れられる

学校内でのぶどう栽培



ぶどうの収穫・販売



ぶどうの収穫・販売



学校外でのぶどう栽培実習



環境農林水産総合研究所でのぶどう栽培実習

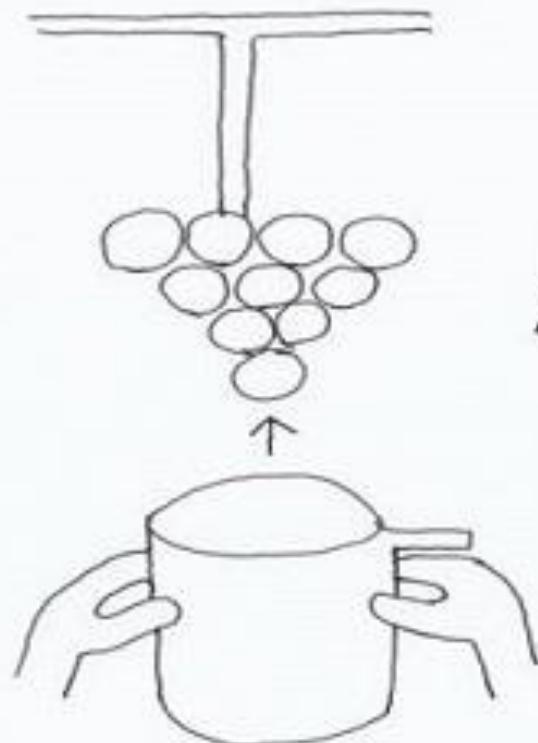
- ・芽かき
- ・花穂整形
- ・ジベレリン処理
- ・摘粒
- ・袋かけ
- ・収穫
- ・剪定



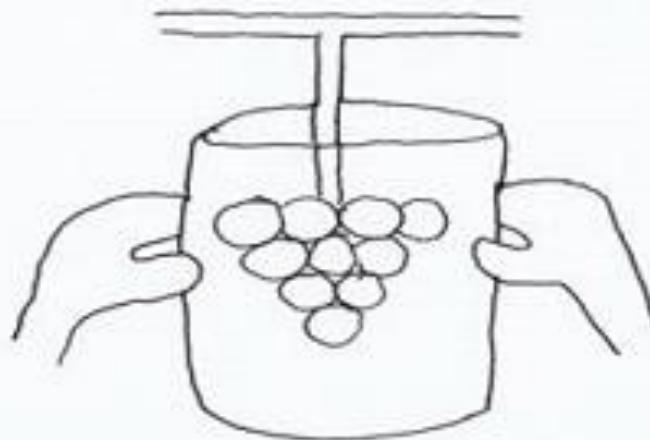
I. ビニルハウス建設・新手法でのぶどう栽培

80点

2. 誰にでも分かりやすいテキストづくり



りょうて も
両手で 押すて
下から かぶせる



ぶどうが 袋の中で
まなか
真ん中にくるように
する



ぶどうの軸を 真ん中
にして 袋の口を
あつ
集める



片手で 袋の口を持ち
もう一方の手で 口に
ついた 金針を 口の
まわりに巻き付ける

「わかる」伝え方

- 具体的に
- 作業を分解して
- 視覚情報も付けて

「わかる」伝え方

○具体的に説明する

(例) 水を多めにやる

⇒ 4リットルのジョウロに満タンに

入れた水を全部かける

「わかる」伝え方

○ 作業を分解して単純化する

(例) ぶどうに袋をかける

- ⇒ 1. 開いた袋を下からかぶせる
2. ぶどうを袋の真ん中にする
3. 袋の口を左右から集める
4. 片手で袋の口を持ち、針金を巻く

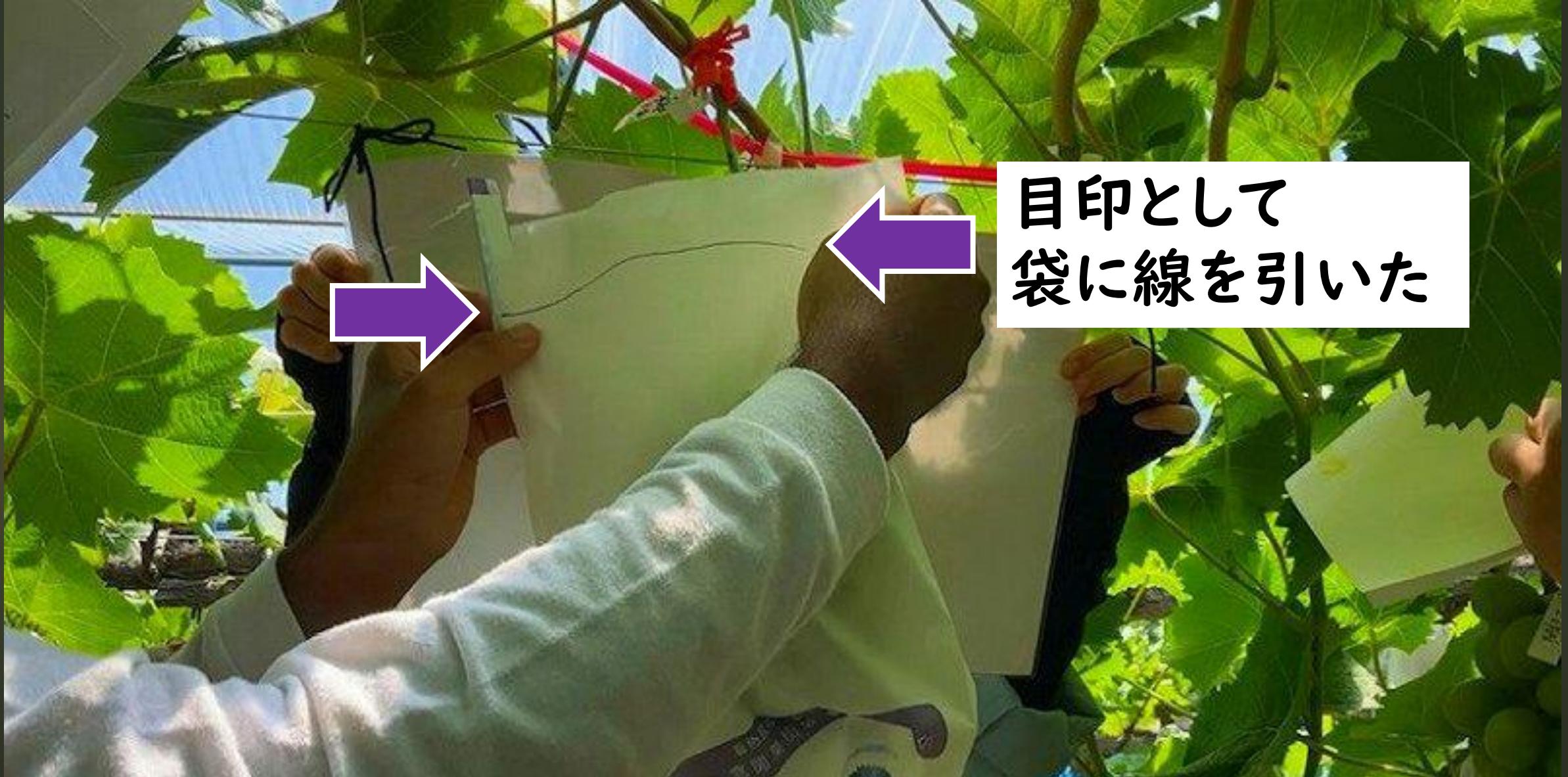
「わかる」伝え方

○手本・見本や写真など視覚情報で伝える

(例) 口頭での作業内容の説明に加えて

- ⇒
- ・図や写真が入った説明書を示す
 - ・目の前で手本を示す
 - ・見本を見せながら作業させる

袋かけ実習での気づき



袋かけ実習での気づき



袋かけ実習での気付き

○少しの工夫で、作業が大きく改善する

○支援方法や作業環境を調整すれば

知的障がい・発達障がいのない方と

ほぼ同等の作業が「できる」

動画作成方法の検討

- 説明原稿の読む速度は？
- 写真が有効か？ イラストが有効か？
- BGMや効果音はあった方がよいか？
→ 業者に動画作成を依頼して実証

教員向けのマニュアルづくり

- ・ 農業の知識が必要なくても
- ・ 理科が苦手でも

「これされ見れば、ぶどうを栽培できる」

教員用ぶどう栽培テキストを作成・更新中

2. 誰にでも分かりやすいテキストづくり

90 点

3. 全校一貫したキャリア教育

【小学部】社会を知る → 働くことへのイメージをもつ

【中学部】仕事を経験 → 自分が働く姿をイメージ

【高等部】自分の適性に合った進路選択をする

ぶどうを「栽培する」「販売する」「収入を得る」

【小学部】高等部の活動を見学、一部を経験

【中学部】高等部の活動を補助

【高等部】主体的に栽培・販売活動を実践

ぶどう栽培場所の拡大



3. 全校一貫したキャリア教育

50点

4. シンポジウム開催・農福連携ネットワーク拡大

2023年10月31日

第1回シンポジウム

2024年10月25日

第2回シンポジウム

2025年 7月 9日

大阪公立大学主催

シンポジウムに共催

第1回農福連携シンポジウム

【ユニバーサル農業の実践】

京丸園株式会社 鈴木 厚志 氏

【農作業の効果と障がい者のしごとの広がり】

大阪公立大学 植田 剛司 氏

【ぶどう栽培実習による作業習得支援】

農業大学校 山口 洋史 氏

第1回農福連携シンポジウム



第1回農福連携シンポジウム

【ぶどう生産者を交えたパネルディスカッション】

- ・太子町ぶどう生産者 丸谷 充 氏
- ・柏原市ぶどう生産者 乾 健裕 氏
- ・太子町ぶどう塾 佐藤 正満 氏

第2回農福連携シンポジウム

【こころみ学園とココ・ファーム・ワイナリーの歩み】

こころみ学園

越知 真智子 氏

ぶどう・シイタケの栽培を通した知的障がい者の
心身の健康をめざす取組みを55年以上継続

【ココ・ファーム・ワイナリー】



【ココ・ファーム・ワイナリーHPより】

第2回農福連携シンポジウム



第2回農福連携シンポジウム

【パネルディスカッション】

- ・カタシモワインフード株式会社 高井 麻記子 氏
- ・太子町ぶどう生産者 丸谷 充 氏
- ・ディーセント・ファームかしわら 植田 剛司 氏

農福連携シンポジウム

農業における【アクセシビリティ】

【画像認識に基づく障がい児農業キャリア教育支援アプリの開発】

大阪公立大学

内海 ゆづ子 氏

大阪府立環境農林水産総合研究所

三輪 由佳 氏

【未来の担い手のための農作業支援ソリューション】

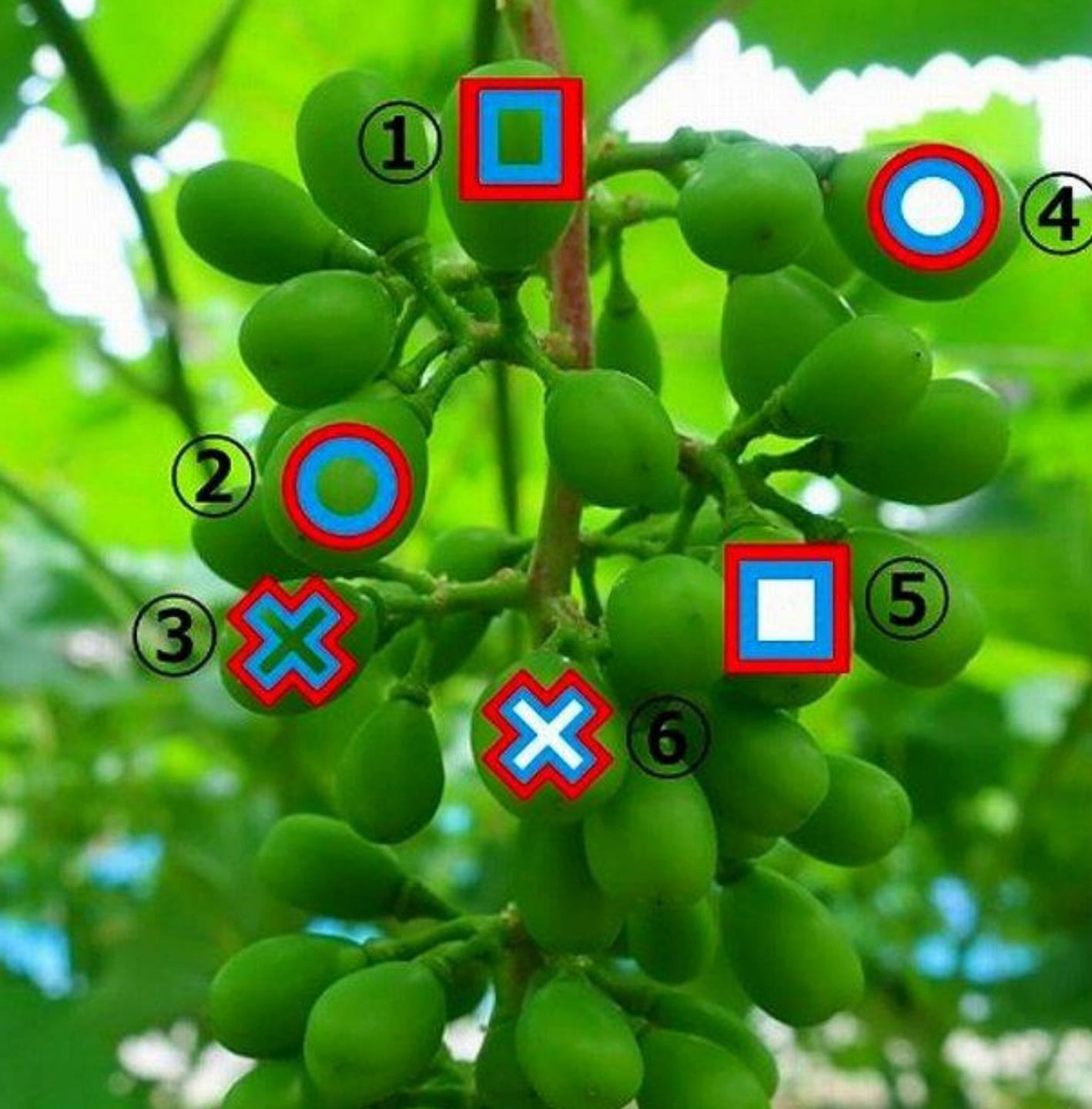
ヤンマーホールディングス株式会社

小西 充洋 氏

【高床式砂栽培を用いた農福連携の実現】

東レ建設株式会社

小倉 久弥 氏



摘粒作業
支援アプリ

農福連携シンポジウム

農業における【アクセシビリティ】



4. シンポジウム開催・農福連携ネットワーク拡大

80点

5. 卒業生のぶどう栽培での活躍に向けて



障がい者雇用の実際

大阪府最低賃金 1,177円

とても簡単な作業

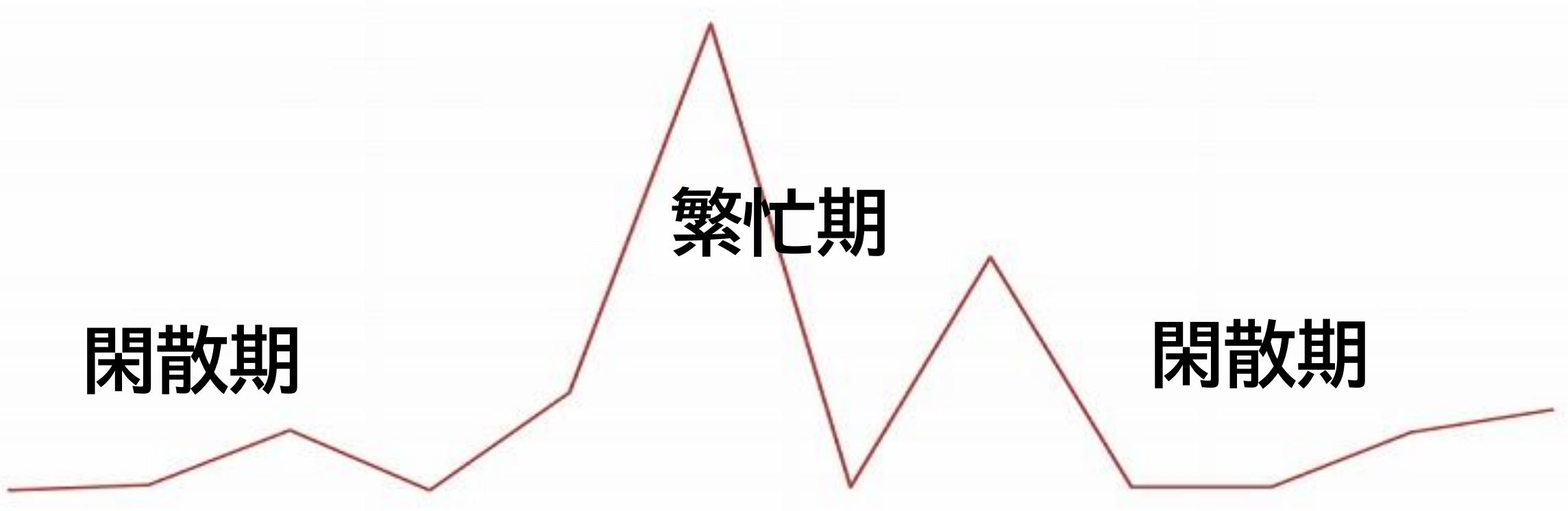
待ち時間がとても長い

最低賃金減額

特定認可制度

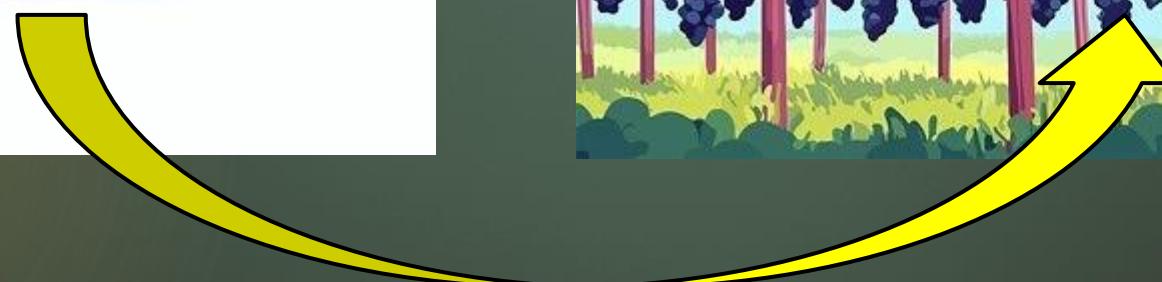
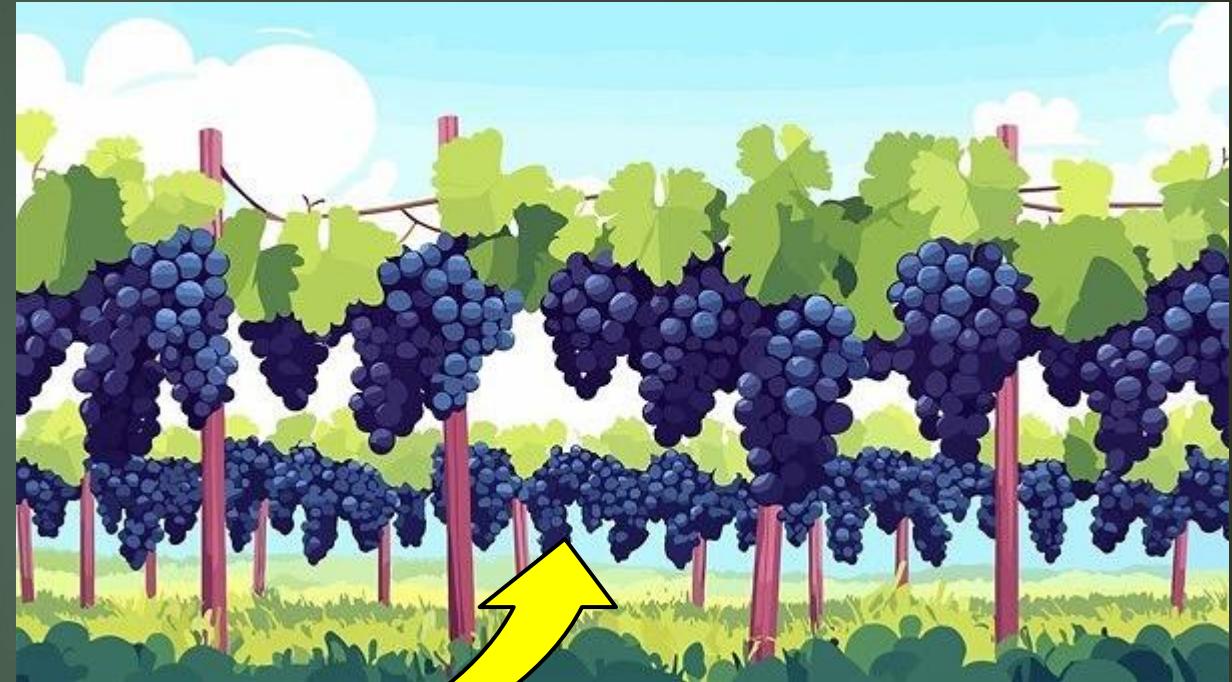
助成金

障がい者雇用の実際



ぶどう栽培における農福連携

福祉事業所



作業のある時に農家圃場に行く

こころみ学園

→ → ワイン醸造用ぶどうを納品 → →

← ← ぶどうの代金 ← ←

← ← ぶどう栽培技術指導 ← ←

→ → 労働力の提供 → →

← ← 工賃(人数×労働時間) ← ←

ココ・
ファーム・
ワイナリー

B型事業所など

ぶどう生産者(農家)

ぶどう栽培による農福連携の課題

1. 直接の雇用は難しい
2. ぶどう圃場にはトイレがない
3. 繁忙期は圃場が暑い

5. 卒業生のぶどう栽培での活躍に向けて

60点

6. 地域農業産業への就労を実現

今年度の高等部3年生

- ・ 農作業を行う企業への就労予定者なし
- ・ 農作業を行う福祉事業所の利用予定者あり

6. 地域農業産業への就労を実現

70点

まとめ

1. ビニルハウスを建設して新手法でぶどうを栽培

→ 80点

2. 誰にでも分かりやすいテキスト作成方法を確立

→ 90点

まとめ

3. 小学部・中学部・高等部で一貫したキャリア教育

→ 50点

4. シンポジウムを開催して農福連携ネットワーク拡大

→ 80点

まとめ

5. 卒業生がぶどう栽培で活躍するための条件整備

→ 60点

6. 地域農業産業への就労を実現

→ 70点

今後の展望

- 6つの事業目標達成に向けた取組みを継続
- 支援学校の農福連携の取組みのモデルに
→ 成果を広く発信・共有